

二宮町立二宮西中学校

研究テーマ：9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通した、
「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方（4年次）

1 実践の目的

二宮町では、令和5年4月より町内すべての学校が1つの施設分離型小中一貫教育校『にのみや学園』となった。学園の開校に向けて、にのみや学園の教職員全員の願いや想いを紡ぎ、教育目標を次の通り定めた。

『認め合い 高め合う 二宮の子』

この教育目標を実現するために、子ども同士の学び合いや話し合いを中心とした授業づくりに学園全体で共通性と一貫性をもって取り組んでいる。学級づくりの基盤や学習の進め方を揃えることで、子どもたちが安心して学んだり、進級したりできるようにするとともに、9年間を見通して子どもたちに必要な資質・能力の育成を図ることができると考える。

子どもたちに育みたい資質・能力を学園内で共通理解を図り、授業づくりを進めることを大事にしている。

二宮町で育みたい汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認めて高め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③諦めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	

授業づくりでは、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を意識し、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力・人間性を一体的に育てて

いくための授業改善を図ることを意識している。

特に、4年次となる令和6年度においては、学びに向かう力を高めていくために、以下の内容も研究の視点に加えて取り組んだ。

- ・習得の授業における子どもの主体性
- ・日常生活や学校生活との関連付け
- ・学習活動や単元全体の目的意識の共有

2 実践の内容

（1）研究体制

今年度も引き続き、教育力向上アドバイザー吉新一之氏（元川崎市立川崎小学校長）を講師に迎え、指導・助言を仰いでいる。

（2）研究授業、研究協議の様子

今年度4月には、本校の教職員を対象に、第1回授業研究会を行った。そこでは、校内研究の意義や、話し合い活動の目的を再確認することで、教職員の意識の土台を統一することにつながった。また、若手教員を軸として研究推進小委員会を発足し、日々の授業や研究について、相談・共有する機会を作った。

研究授業について、第1回目の研究授業では、社会科（公民）の授業（3年1組）を行った。生徒は、「クラス全員での話し合いの授業」が小学校からの積み重ねとして行われているため、どの生徒も活発に自分の意見を伝え合うことができた。「公正と公平」という単元において、自分の立場を明確に

して意見を出すという生徒にとって難しい課題に対しても、自分の考えを聞いてもらえるという安心感のある集団ができているため、多くの意見が出たと考えられる。

また、研究協議においては、「話し合いの授業で困っていることは？」という困り感の共有からはじめ、挙がった事項についての解決策やアイデアを話し合った。そのことにより、それぞれの教員が持っている考えやコツなどを共有しあうことができた。

第2回目の研究授業では、道徳の授業（1年2組）を行った。「席替え」という資料を通して、自分たちのクラスをよりよくしていくため必要なことや大切なことを考えていく授業であった。

研究協議では、実際に授業を行った教室を使って、生徒と同様にコの字型になって協議を行った。生徒の板書を見ながら、「この〇〇さんの発言は～」と授業の流れや生徒の発言内容に沿って話し合うことができたため、より授業の発問について、具体的に話し合うことができた。



3 実践の成果

（１）教師の変容

これまでは、話し合いの授業について、校内で共通認識を持つことは困難であったが、年度当初に研究会を持つことや、研究協議の中で困り感を共有することにより、少しずつ意識の統一を目指すことができた。また、研究推進小委員会を発足したことで、若手教員が研究や授業について、また日々の

業務についての不安感を解消することにつながったと考えられる。

（２）子どもの変容

本校が行っている学習アンケートによると、「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」という質問に対し、肯定的な回答が多かった。学年が上がるにつれ話し合いが活発でなくなりやすい傾向にあることを踏まえると、小学校時から話し合いの授業を通して自分の考えを深めたり広げたりすることは有効であると考ええる。

4 今後の展開

（１）今後の課題

毎年教職員が入れ替わるなかで、4月当初に研究の意義を確認することは有効であったと考えられる。しかし、毎年同じ内容を振り返ることになるため、どのようにステップアップしていくのが課題である。

来年度以降も、今年度と同じく小学校で話し合いの授業を経験してきている生徒が入学してくるので、話し合いの授業が行いやすくなる。そのため、来年度以降も徐々に話し合いの授業について取り組み、少しずつ話し合いの授業を行う教員が増えることを期待したい。

（２）今後の研究について

引き続き、小学校からのつながりを意識しながら、「学習事項を習得させつつ話し合いの授業の時間を確保する手段」や「教師が積極的に研究に取り組めるための日々の業務改善」について、校内で理解を深めたい。また、教科の専門性の中でできる効果的な話し合いの授業への工夫改善を視野に入れ、研究体制を整えていきたい。